授業科目名[英語名]							
持続可能な開発と東洋の環境思想[Sustainable Development and Oriental Environmental Ethics]							
担当教員名[連絡先(TEL,研究室など)]							
萩原　豪[099-285-3757]							
E-Mail	k6219828@kadai.jp		受講対象	全			
課程区分	共通教育	学科/科目・分野等	教養 １分野	開講期	後期水曜４	単位等	2
共同担当教員名							

教育目標のキーワード
視野･判断力･探求能力/コミュニケーション能力と相互理解
学習目標 (学生の達成　目標)
受講生が「自ら問題を発見・考察・分析・整理・発表する」という一連の流れを通じ、社会人としての基礎技術を習得することを最終目標としています。この講義を通じて、多角的な視点から事象を見て考察する経験をし、受講生が将来、実社会での情報発信・情報共有に活かせるようにしていきたいと思いますので、受講生には積極的な参加（単なる出席ではなく発言すること）を求めます。なお、情報発信の訓練として、課題等（A4用紙１枚程度）を最低２回提出してもらいます。
授業概要 (目的･内容･方法)
1987年、「持続可能な開発」（Sustainable Development）という考え方が世に出てきました。これ以降、現在まで地球環境と開発を巡る問題には「持続可能な開発」という考え方を用いることが多くあります。しかし、この言葉の共通認識はあるものの、その定義はいまだ定まっていないのが現状です。 他方、東洋社会には伝統的は「人間は自然との関係性の中で生きている」という「持続可能な開発」に深く関連する環境観が存在します。東洋社会では、人間の利益を絶対的に考えるのではなく、自然生命の固有価値のなかに人間の生存を見出してきています。日本における自然崇拝も、この事例のひとつと言えるでしょう。 今後、「持続可能な社会」の構築を実現するためには、さまざまな主体（個人・政府・自治体・地域社会・企業・民間等々）が協力し合わなければなりません。本講義では、日本（東洋）においてESDを実践していく上で必要不可欠な環境思想・倫理について、「持続可能な開発」との関係性に焦点を当て、身近な例を取り上げながら受講生と一緒に考えていきます。
授業計画 (15回に分けて、回数、日付、授業内容、授業外活動など)
第1回目の授業ではガイダンスを行います。その際、履修希望者の関心がどのようなところにあるのかを確認していきます。その後の流れは以下のように考えていますが、受講生の関心や時事的なテーマなども踏まえて、その都度、柔軟に対応していきます。受講生の人数によっては、グループワークを行うことも考えています。 ・ガイダンス ・「持続可能な開発」と「持続可能な社会」とは何か ・環境思想・倫理の系譜 ・東洋の環境思想・倫理 ・ケーススタディ（自然環境と開発、電源地と消費地、科学技術と環境） ・全体総括

受講要件	本講義のテーマに関心をもっていること。できる限り、受講生の知的好奇心に対する便宜を図っていきたいと思います。いろいろな「モノ」を自分の眼で見てみたい、という好奇心旺盛な学生諸君の参加を待っています。		
評価基準および方法	授業態度30%、課題等提出物30%、期末試験40%で総合的に判断します。ただし、出席が総授業数の３分の２未満の場合、期末試験を受験しない場合は評価対象外とします。 （受講人数によっては期末試験ではなく、期末レポートに変更する場合もあります）		
教科書	教科書は使用しません。必要な資料は毎回の授業で配布します。 課題作成のために必要な書籍は別に指定します。	**参考書**	尾関周二・武田一博・亀山純生『環境思想キーワード』青木書店、2005年。加藤尚武『環境倫理学のすすめ』（丸善ライブラリー）丸善、1991年。加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』（丸善ライブラリー）丸善、2005年。 書籍・新聞・雑誌・マンガ・映画・webなど、日常生活に関することを幅広く取り上げていきます。
授業時間外対応(オフィスアワー、授業後、学習シートなど)	【オフィスアワー】毎週木曜日４時限目 基本的にメールでの対応を主としますが、直接の面談も歓迎します。オフィスアワーでの面談については、できるだけ事前にメールでアポイントをとるようにしてください（ダブルブッキングを避けるため）。	**その他**	基本的に質問事項は授業後、もしくはメールにて受け付けます。または、学内で見つけたら、その場で声をかけてみてください。時間がある場合にはその場で対応します。オフィスアワーでの対応については、できるだけ事前にメールでアポイントをとるようにしてください。 詳細については稲盛アカデミーのウェブサイトを参照してください。（http://www.inamori-academy.jp）